

武道における町道場の現状

○ 高橋 賢 (東海大学大学院生)

西野 仁 (東海大学)

I. はじめに

日本の代表的なスポーツの野球やサッカー、バスケットボール、バレーなどは欧米で生まれ、明治以降に日本に持ち込まれ、学校や企業を中心に発展してきた。しかし、日本の伝統的スポーツである武道はこれらのスポーツとは異なる発展をしてきた。明治15年(1882年)嘉納治五郎が、日本古来の戦い的手段であった柔術に、教育的価値を加え、技術を発展させ、(講道館)柔道を創設した。これが契機となり、現在の剣道などの武道が誕生した。特に柔道や剣道は、まず地域の道場で主に行なわれ、その後、警察、学校などで発展していった。現在でも、橋本³⁾によれば、柔道は町道場、学校、企業、警察を中心に行なわれている。そして、現在の武道(柔道、剣道、空手など)の参加人口は推定320万人¹⁾であり、施設数は、1996年の文部省(現;文部科学省)の「体育・スポーツ施設現況調査」²⁾によると、柔道場が3,962、剣道場が3,513、柔剣道場(武道場)が7,643であった。

ところで、現代の日本社会では、少子化による部活動の休部・廃部、企業スポーツの衰退、情報化社会に伴う急速な社会環境・生活様式の変化により、身体活動の機会や場が減少すると同時に、精神的なストレスの増大によって、心身の健康に大きな影響を与える様々な問題が生じてきている。また、労働時間の短縮、自由時間の増大によって、スポーツに対する関心が高まってきている。このような背景の中、文部省は2000年9月、スポーツ振興基本計画を発表した。そこでは、2010年までに総合型地域スポーツクラブの全国展開を進めていくことが掲げられている。しかし、この総合型地域スポーツクラブは、ヨーロッパ諸国(特にドイツ)にみられる地域スポーツクラブがモデルとなっており、日本ではまだ馴染みが薄い。さらに、1995年から現在までモデルケースも含め様々な総合型地域スポーツクラブが日本では展開されているが、多くの課題が残されている。

このような現状の中で、日本では、武道においての地域スポーツクラブである町道場が、古くから存在し、展開されてきている。橋本の「生涯学習時代の町道場を訪ねて」⁴⁾の調査によると、多くの町道場では会費を納入し、幼児から成人までが活動している。幾つかの町道場では、武道のみならず、スキー、登山、清掃活動など様々な活動を行なっている。施設は、個人の道場、学校施設、公共施設、警察などを使用している。しかし、この調査は、特徴ある活動を展開する町道場に対して調査を実施したものであり、総数も少ない。

そこで、日本において総合型地域スポーツクラブの展開を進めるならば、ヨーロッパのクラブと同時に、日本の文化と風土の中で古くから地域スポーツクラブとして実際に展開してきた武道における町道場の現状を把握することが重要であると考え、本研究に着手した。

II. 研究の目的と方法

1. 研究の目的

本研究の目的は、特に柔道における町道場の現状を指導目的、施設の規模や設備、会員数や会員数の変化、活動内容などの点から明らかにすることである。

2. 研究の方法

1) 調査の方法: 事例調査

2) 調査対象者: K県柔道道場連盟加盟のA道場、B道場の2道場。

3) 調査内容: 指導目的、施設、指導者、会員、練習内容、指導方法、柔道以外の活動、学校部活動との関係など

Ⅲ. 結果及び考察

1、A 道場、B 道場の、1) 道場の設立目的と設立年、2) 運営形態、3) 運営資金と主な利用方法、4) 施設の形態と設備、5) 会員数、6) 指導者数、7) 指導目的、8) 練習日と練習時間について

<A 道場>

1) 地域の青少年の教育、健全育成を目的に、1978 年に設立。2) 代表者（事務兼任）のみで運営。3) 運営資金は、会費（入会金、月会費）のみで、主に施設の維持・管理費に利用。4) 練習場は、工業地域内のビルの3階に設置され、広さは70畳。設備は、更衣室、トイレ、トレーニングルーム、事務所。5) 会員数は、男性52名、女性7名（小学生以下は全体の7.5%、小学生47.2%、中学生20.8%、高校生17.0%、一般7.5%）6) 指導者は1名。7) 指導目的は「怪我の予防が一番大切、小学生は基礎体力づくりと柔軟体操から、遊べば見つかる子供の特性」8) 練習日は、週3回。練習時間は、1日平均210分。

<B 道場>

1) 「柔道修行を通しての人づくり」という夢の実現のため、15歳以下の子供にもっと柔道を広める目的で、2001年に設立。2) 代表者（事務兼任）のみで運営。3) 運営資金は、会費（入会費、月会費）のみで、主に施設の維持・管理費、広報誌の作成費、賞状とメダルの作成費に利用。4) 練習場は、商店街の3階建ビルの1階に設置され、広さは24畳。設備は更衣室、トイレ。事務所は、代表者の自宅に設置。5) 会員数は、男性41名、女性12名（小学生は全体の58.5%、中学生32.1%、高校生7.5%、一般7.5%）である。6) 指導者は4名。7) 指導目的は「人に迷惑をかけない子、人の嫌がることはしない子、強くてやさしい子を育てること」8) 練習日は週5回。練習時間は、1日平均75分。

2、A 道場、B 道場の共通点

- ・指導者は、ボランティア（無給）で指導を行なっている。
- ・道場は、会費を納入する会員制になっている。
- ・道場の活動として、柔道以外のスポーツや運動は行なっていない。
- ・単に柔道の技や技術などを練習（稽古）するだけでなく、講義（指導者が会員に対して話などを聞かせること）や問答（指導者と会員が互いに話し合うこと）を取り入れている。そして、講義や問答の内容は、「柔道の技術について」、「道徳や倫理について」、「日常生活一般について」である。

Ⅳ. 今後の研究の進め方

本研究は、柔道における町道場の現状を施設、指導者、会員、指導内容、指導目的、活動などの点から明らかにしようとした事例調査であるが、事例数がまだ少ない。そこで、今後はさらに事例を増やし、研究を深めていきたい。

参考文献

- 1) 財団法人 自由時間デザイン協会編「レジャー白書2002」(2002)
- 2) 文部省（現；文部科学省）「体育・スポーツ施設現況調査」(1996)
- 3) 橋本敏明「生涯学習と柔道—社会教育の視点からの一考察—」(武道学研究第31巻第2号掲載 1998)
- 4) 橋本敏明「生涯学習時代の町道場を訪ねて」(月刊武道 1991年6月号通巻295号～1993年2月号通巻315号)
- 5) 大滝忠夫監修「論説 柔道」不昧堂出版(1984)
- 6) 中村民雄「道場—その成立過程の研究—」(武道学研究第25巻1号掲載 1992)
- 7) 橋本敏明「地域社会における柔道普及について—大学の役割を考える—」(2002)